南の風
ふぇーぬ風

発行　〒901－1115
沖縄県南部農業改良普及センター
TEL：(098) 889－3515
FAX：(098) 835－6010

平成21年度　南部地区園芸推進大会の開催

主催：南部地区園芸振興推進協議会

南部地区野菜振興推進協議会は昭和58年に沖縄協同青果株式会社の設立（昭和58年）、沖縄県中央卸売市場の開設（昭和59年）にあたり、南部地区の野菜生産出荷を推進・指導する目的で設置された。構成は南部地区市町村役場、南部地区農協、関係機関で、経費は構成員の負担金で運営されてきた。当協議会は野菜栽培技術の講習会、現地検討会等の開催、「沖縄におけるゴーヤーの栽培技術」の冊子、野菜の生産振興に関するパンフレット等の作成を行ってきた。

その後、平成11年に県の推進する農業アクションプログラム園芸拠点産地形成に向けての野菜、花卉、果樹の組織として、園芸拠点産地協議会が市町村単位で設置された。南部地区園芸拠点産地協議会連絡会は平成14年度に各産地協議会の活性化や生産組織の育成、相互の情報交換等により、地域農業の所得向上を図る目的で設立された。それにより、平成15年度からＪＡおきなわ支店長会と野菜振興推進協議会等の協賛により地区園芸推進大会を開催している。

現在は、地区野菜振興推進協議会と地区園芸拠点産地協議会連絡会が、事業の効率化に伴って合併し、平成19年３月に南部地区園芸振興推進協議会が発足し、第３次沖縄県農林水産業振興圏域別計画を踏まえ、地域特性を生かした園芸産地の育成に努めており、園芸推進大会、講演会等を行っている。本協議会の経費は地区市町村役場、ＪＡ南部地区営農振興センター、沖縄県花卉園芸農業協同組合、沖縄協同青果株式会社の負担金で運営している。

各市町村園芸拠点産地協議会は、８市町村の野菜、花卉、果樹で21協議会が設立され、拠点産地認定も野菜11産地、花卉５産地、果樹３産地の合計13品目・19産地が認定されている。

園芸推進大会の目的は拠点産地育成に係るこれまでの活動の総括と今後の各産地協議会の活性化と合わせ、関係機関・団体等との連携強化、また、生産農家間の交流及び営農意欲の高揚を図ることである。今年も冬春期の作付け前に、下記の日程で第７回南部地区園芸推進大会を開催しますので、関係者多数の参加をお願いします。

『平成21年度　南部地区園芸推進大会』

日　時：平成21年10月13日（火）午後２時～７時
場　所：糸満市農村環境改善センター
　　　（ＪＡ糸満支店２階ホール）

内　容
第Ⅰ部　基調講演会、産地における活動事例報告
　　　　生産者代表挨拶、激励の言葉、スローガン斉唱
第Ⅱ部　園芸推進交流会

（園芸技術普及班　大城　啓光）

平成20年度園芸推進大会

フロアとの質疑応答

関係機関・生産者との交流会

気をつけていますか？ 作業中の暑さ対策

キクの定植作業、ストレリチアなどの出荷作業が順調に進んでいます。

作業中の暑さ対策、意識していますか？

朝夕涼しくなってきましたが、 まだまだ注意が必要です。

ハウス内などの高温、多湿、風が弱い環境や近くに熱源がある場所で作業をすると体力を消耗したり、熱中症になる危険性が高くなるといわれています。

普及センターの調査では、平張施設内の気温は午前10時頃には30℃ を超えており、ほとんど無風状態になるということが分かっています。また暑熱環境の状態を示すといわれているＷＢＧＴも午前10時以降は30℃ をこえています（図１）。

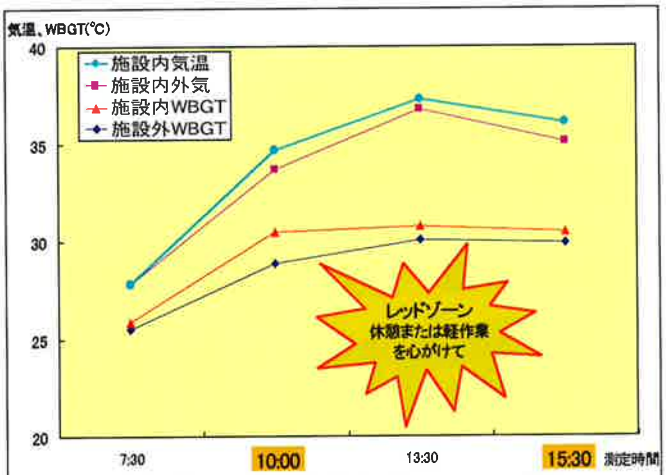


図1　鉄骨平張施設内外における気温、WBGTの推移
(H21.8.28)

一口メモ

WBGT（湿球黒球温度とは）

人体の熱収支に影響の大きい湿度、輻射熱、気温の３つを取り入れた指標で、熱中症予防のための指標として用いられています。中等度作業では許容基準はWBGT29.0といわれています。

涼しく作業をするために以下の点について確認してみましょう（7点以上を目指しましょう）。

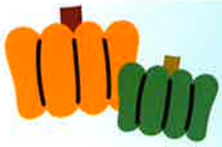
- □ 温度計を設置し、温度を確認しながら作業をしている。
- □ 作業時間は30℃以上の暑い時間帯をはずしている。
- □ 調整作業などはなるべく木陰や室内で行っている。
- □ UVカット素材を利用した作業着、涼しい服装をしたり、濡れタオル、保冷剤などを体に巻いている。
- □ 服装は蒸れない工夫をしている。
- □ 汗で失われた水分や塩分をこまめに補給している。
- □ 寝不足、二日酔いはないか。また食事は摂れているか。
- □ 休憩は涼しいところで取るようにしている。
- □ 屋内で作業する場合や休憩室は、日光を遮り、風通しをよくしている。
- □ 作業場は天井に断熱材をはるなど、屋根からの熱を遮る工夫をしている。

また気分が悪いと感じたら、無理をせず周りの人に知らせましょう。

頭がガンガンする。
吐き気がする。
体がだるい。
こんなときは…

十分休息をとるか、
医療機関へ！

（園芸技術普及班　神村亜矢子）



かぼちゃは苗作りが大切!!!

☆☆かぼちゃの収量に大きく関わる苗作り。
今回はかぼちゃについてお話します。☆☆

かぼちゃは、苗半作と言われ、育苗期間中に花芽が分化し、定植期（本葉３－４枚頃）には十数節目まで花芽が着生する。つまりは、生育前半（苗）の時期の管理を先を見越して行うことで、収量に大きく影響する。

1. 播 種

発芽の適温は25～30℃なので適温の確保につとめる。また発芽時には大量の水分を吸収するので、培地には十分な水の供給が必要である。発芽を揃えること、本数を確保すること、これが必須条件。

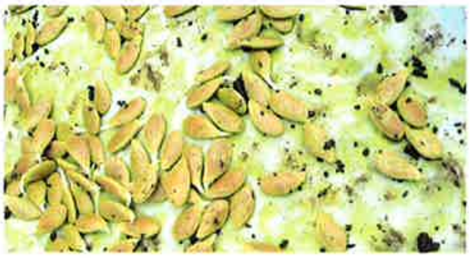
欠株が出たときのために補植苗も準備する。

◀ポット苗の育苗中は寒冷紗かビニールで被覆して防虫・ウイルス対策につとめる。

覆土を適量にし（６～７ミリ）種皮をかぶったまま地表面に出ないよう、まき終ったら手の平などで押さえる。

2. 発 芽

播種された種子は２時間程で急速に水分吸収し、さらにゆるやかな吸収を続けながら幼根が伸長しはじめる。２日後、発芽口の部分から種皮が割れ胚軸の下部がわん曲してのぞいてくる。



発芽促進事例

種を一晩（６～７時間）水につけて沈んだものを残し、種の水分を軽く拭きとった後、塗れたガーゼに包み１～２晩置く。発芽を確認してポットに植える。

子葉が地表に現れはじめたら光にあてて、温度を２～３℃下げて、徒長を防ぐ。子葉展開時期は非常に徒長しやすい。したがって育苗でこの時期を高温多湿にすると、たちまち徒長となるので注意。

子葉が緑化し、V字型から水平に開き、側根も発達し、独立して栄養生長を始める。

3. 本葉展開～定植まで

本葉１枚の段階で温床育苗では、すでに雄花の分化が開始されている。本葉３～４枚になったら定植を行うのが望ましい。本葉５枚では、親づるで16節くらいまで花芽が分化している。定植が遅れて老化苗にならないように、本畑の準備も合わせて行う。

◀ビニールかネットで被覆した後、定植前日には根の張りを良くするため、植え穴に十分かん水し、粒剤を入れる。定植後には株元への手かん水を行う。

この時期の苗管理をしっかり行い、収量をアップさせましょう。

（園芸技術普及班　照屋）

第2回 南部地区トラクター耕大会

南部地区の農業機械士の資質向上と農作業安全に関する意識高揚、さらに今年開催される県大会への代表選出のために平成21年7月9日（木）に第2回南部地区トラクター耕大会が八重瀬町の具志頭の慶座土地改良区の圃場にて開催された。

県大会の競技種目と競技法の変更に伴い、南部地区の大会も変更された。

従来はプラウ耕とロータリー耕の2種目だったが今回からはロータリー耕（全国大会の競技種目）の一種目となり競技法も変更された。

○競技大会本番

選手は南城市1名、糸満市1名、久米島町2名、南大東村1名の計5名が出場した。

競技会場は土地改良工事が終わった直後で大きなクチャの塊が多く操縦が難しく、又、選手は競技用トラクターの操縦に不慣れな点も見られた。久しぶりの大会なので審査員も練習して本番に臨んだ。

審査状況

○審査結果

最優秀賞
（大城氏：南大東村）

優秀賞
（与那嶺氏：久米島町）

優良賞
（盛根氏：南城市）

優良賞
（玉城氏：久米島）

優良賞
（仲門氏：糸満市）

○第7回沖縄県トラクター耕大会で南部支部代表が両種目で上位入賞した

南部地区トラクター耕大会の翌日の7月10日（金）に第7回沖縄県トラクター耕大会が南部地区会場と同じ慶座地区で開催された。

沖縄県全地区から代表者が揃い、ロータリー耕5名、プラウ耕5名の計10名の選手が参加した。

南部支部の代表選手は南大東村の大城氏がロータリー耕3位、久米島町の与那嶺氏がプラウ耕で1位となり両種目で入賞となった。

県大会の様子（プラウ耕）

プラウ耕部門1位（与那嶺氏：久米島町）

（地域特産振興班　安仁屋）

市町村畜産共進会開催される

南部地域の各市町村主催の畜産共進会が家畜審査技術の向上、家畜管理技術の向上、畜産の振興を目的に８月から９月にかけて開催された。会場は家畜の係留施設のある南部家畜せり市場、久米島家畜せり市場で開催された。各家畜共進会の出品資格は、市町村共進会で選抜されたものが南部地区共進会（10月１日開催予定）に、地区で選抜されたものが県共進会（11月５日・６日開催予定）へと出品されることになっている。（久米島町からは特別に牛２頭県共進会へ直接出品する。）

南城市畜産共進会は８月25日に肉用牛52頭、種豚６頭、山羊33頭合計91頭の出品で開催された。肉用牛部門の優等入賞者は若雌１類が宮城正、若雌２類が宮城秀樹、成雌１類が宮城明彦、成雌２類が宮城清仁、成雌３類と雌子牛が宮城秀樹、去勢子牛が親泊トシ子であった。山羊部門の優等受賞者は未経産が玉城文雄、経産、若令雄、壮令雄の３区が城間幸雄であった。

八重瀬町畜産共進会は８月26日に肉用牛40頭、豚５頭、山羊21頭の出品で開催された。肉用牛部門の優等賞受賞者は若雌１類が諸見里真吉、若雌２類が富田進、成雌１類が神谷良吾、成雌２類が浦仲浩一、経産３類、雌子牛、去勢子牛の３区が大城菊雄であった。山羊の部門優等受賞者は未経産と経産が金城寿善、若令雄と壮令雄が大城菊雄であった。

久米島町畜産共進会は８月27日に肉用牛58頭の出品で開催された。優等賞受賞者は若雌１類が知念直樹、若雌２類が仲宗根勝、成雌１類が新里栄勇、成雌２類と去勢子牛が内兼久清、雌子牛が新垣孟秀であった。

南城市畜産共進会

豊見城市畜産共進会は８月28日に肉用牛22頭、種豚８頭、山羊15頭の出品で開催された。肉用牛部門の優等入賞者は若雌１類が大城靖、若雌２類が大城正、成雌３類が高安正勝、雌子牛が安仁屋源、去勢子牛が赤嶺ヨシ子であった。山羊の部門優等受賞者は未経産、経産、壮令雄の３区が平良源吉、若令雄が仲宗根徳であった。

糸満市畜産共進会は９月１日に肉用牛40頭、種豚11頭、山羊25頭合計76頭の出品で開催された。肉用牛の部門優等入賞者は若雌１類と経産３類が山城義光、若雌２類、成雌１類、成雌２類の３区が前門真秀、雌子牛が照屋茂則、去勢子牛が玉城薫であった。山羊の部門優等受賞者は未経産が大城助春、経産が国吉勲、若令雄が徳山清秀、壮令雄が大屋信孝であった。

次回の優等牛をめざして下記のことに気をつけて日頃の飼養管理に頑張りましょう。

①草の管理は栄養と嗜好性を考え適期刈りと適期施肥をすること。
②子牛の管理は順調な発育を目的にミルク、人工乳、濃厚飼料、粗飼料を適期に十分給与すること。
③適期に駆虫、ワクチンをすること。
④母牛の管理は、１年１産を目標に粗飼料、濃厚飼料を適量給与すること。
⑤全体的な衛生に気をつけ牛舎の掃除をすること。

（地域特産振興班　伊福　正春）

←八重瀬町畜産共進会

糸満市畜産共進会➡

さとうきびの害虫であるバッタの天敵として導入された、ニホンキジの経緯と現状への対策

鳥獣被害防止対策事業がスタート

1. キジの放鳥

カボチャ畑から出てきたオスキジ

北大東村史によると、1974年に県による北大東島全域を鳥獣保護区に指定する計画があがった際に、異常発生してさとうきびに大きな被害を与えるバッタ駆除のために、キジの放鳥が公聴会で要請された。島にキジを定着させるべく1975年10月4日に静岡県から導入した60羽のキジを放鳥、繁殖を促した。しかし、バッタ駆除を目的として導入したキジは、その5年後には農作物を荒らす害鳥として、駆除の要請が上がる存在となった。放鳥から10年目の時点で、県自然保護課による生息密度調査とともに農作物への被害調査を実施し、キジの間引きの検討がなされ、1987年の生息数調査では約360羽と推定されている。

キジ放鳥から今年で34年、幾度となく村議会にキジ対策が取り上げられてきた。村では、キジはバッタ駆除の天敵として導入したこと、島全域が国指定の鳥獣保護区域となっていることから、捕獲できないとの認識があり、これまで対策が取られなかった。

2. キジ被害防止対策へ向けた村の動き

近年、全国的に里山管理ができなくなってきたことで、鳥獣被害が問題となっている。そのため、国では鳥獣被害防止特措法を制定し、平成20年度から鳥獣害防止総合支援事業が実施されている。

県内では南部広域でシロガシラに、国頭村等ではカラスとイノシシについて事業が導入されている。

これまで、北大東での主な農作物被害が自給用の野菜類なので、被害程度等の具体的な調査はされていなかった。しかし、5年前に栽培が始まったカボチャは、県外で高い市場評価を受けるようになり、キジによる発芽後の子葉や、収穫が近づいた実の食害が栽培大きな被害となっている。そこで、キジ駆除に向けた取り組みの必要性が高まってきた。

カンショ食害

カボチャ食害

3. キジ被害防止対策協議会の設立総会の開催

2009年1月8日、村役場において設立総会が開催され、キジ被害防止のための組織が結成される運びとなった。会長にはさとうきび10haとカボチャ栽培に取り組む仲里淳二氏が、事務局には役場経済課が、書記・会計をJAが担当する。

4. キジ対策

キジは人気のない敷地内、道ばた、畑内等至る所に出没する。追いかけると100～200m程度の安全圏まで飛んで逃げる。慎重で警戒心が強く、捕獲することは至難の業である。CDやペットボトル等のつり下げも、危険がないとわかれば効果はなくなり、決めてがない状況である。

5. 鳥獣被害対策事業の導入

村では今年度の事業に採択され、キジの駆除に向けた取り組みが開始されることとなった。しかし、村民の多くは猟銃の使用を望まないため、網・罠等による捕獲法を検討していかねばならない。

鳥獣捕獲に必要な猟銃、罠、網の資格者が皆無のため、資格取得の講習会の参加からスタートである。現在は3名が講習会を受講し、受験する予定である。

6. キジ対策情報提供の呼びかけ

北大東村での農作物に被害を及ぼすキジ対策は、今スタートしたばかりです。村のキジ被害防止対策協議会は立ち上げましたが、生息密度調査、習性、捕獲法等の多くはこれからの課題となっている。キジ、または他の鳥獣の捕獲アイデア等がありましたら情報をお寄せ下さい。　(北大東駐在　桐原)

認定農業者になりませんか

「認定農業者制度」についての Q&A

1. 認定農業者制度って何？

意欲のある農業者が自らの経営を計画的に改善するために作成した「農業経営改善計画（５年後の経営目標達成に向けた取組内容を記載）」を市町村が認定し、その計画達成に向けた取り組みを関係・団体が支援する仕組みです。

この制度ができた経緯は、平成４年の国の新政策「新たな食料・農業・農村基本計画」で打ち出されたもので、他産業並の年間労働時間で、生涯所得を得るような農家の育成を目指しています。

農業労働時間　2,000時間／年間
農業所得310万円～360万円／年間所得
（例）〇南風原町＝360万円／年間所得
　　　〇南　城　市＝350万円／年間所得

2. 農業経営改善計画はどのように記載するの？

次の事項について５年後の目標とその達成のための取組内容を書けばよいのです。

- 経営規模の拡大（もっと経営面積を広げたい）
- 生産方式の合理化を図る（農業生産の無駄を省きたい）
- 経営管理の合理化を図りたい（コスト管理をしっかりしたい）
- 農業従事の状態を改善したい（労働時間を減らしたい）など

3. 農業経営改善計画はどこに提出するの？

農業者が就農している市町村へ提出します。

所轄の市町村では、市町村基本構想に適合しているか、農用地の効率的・総合的な利用に配慮しているか、計画内容が達成見込める内容になっているかを審査して認定します。計画書の作成に当たっては市町村、普及センター等の市町村担い手協議会がサポートします。

4. 認定農業者になるとどんなメリットがあるの？

主なものに以下の優遇措置があります。

- 経営安定対策（価格補てん）の対象者になります……畜産、指定野菜、さとうきび等
- 農業経営基盤強化資金（スーパーＬ資金）の借入と利子の補給が受けられる
- 各種補助事業（経営構造対策等）の優先
- 農業委員会による農用地の利用集積支援が受けられる
- 農業者年金制度で特例保険料の助成
- 税制上の特例が受けられる（割り増し償却制度等）
- 経営改善に有益な情報、講習会・研修会への参加

5. 認定農業者になれる人は？

意欲のある農業者であればどなたでもなれます。

- 個人（男女問わず）だけでなく法人も対象
- 一定の所得が得られる農業経営を目指す場合は経営規模や所得の小さい農家、新規就農を目指す非農家や兼業農家、再認定を希望する方などが対象となる。
- 農地を多く必要としない畜産や施設園芸等集約的な農業経営体も可能
- 共同経営者になっている場合は経営主以外に、配偶者や農業後継者も認定農業者として共同申請で可能

南部地区の市町村別認定農業者数

（平成21年３月末現在）

	那覇市	豊見城市	糸満市	南城市	八重瀬町	南風原町	与那原町	久米島町
認定農業者	0	101	123	95	89	19	0	32
	渡嘉敷村	座間味村	渡名喜村	粟国村	南大東村	北大東村	計	県全体
認定農業者	0	0	0	1	80	61	601 (31.1%)	1,931

※（　）は県全体に占める地区の割合

「今すぐ行こう！新規者も再認定の希望者も」

＊この制度についての相談・問い合わせ先は、各市町村農業関係課または南部農業改良普及センターへ

（普及企画班　高良）

がんばれ!NEWファーマー

－農業師！おじー(祖父)に憧れて就農を決意－

～新規就農者紹介コーナー～
八重瀬町

サトウキビをはじめオクラ、レタス、キク等の産地として名高い小城集落の土地改良区に颯爽(さっそう)と現れたのは、今回のＮＥＷファーマー仲座千人(なかざかずと)さん（24歳）。

就農して間もない仲座さんは、沖縄県立南風原高校を卒業後、沖縄産業開発青年隊に入隊、大型特殊免許をはじめ数々の資格を取得した。

平成17年12月に、認定就農者として認定され、翌年７月には、㈳国際農業者交流協会の海外研修を活用して大規模農業経営やマーケティング、マネージメント、英語の習得を目的に米国で１年間の研修を修了した。

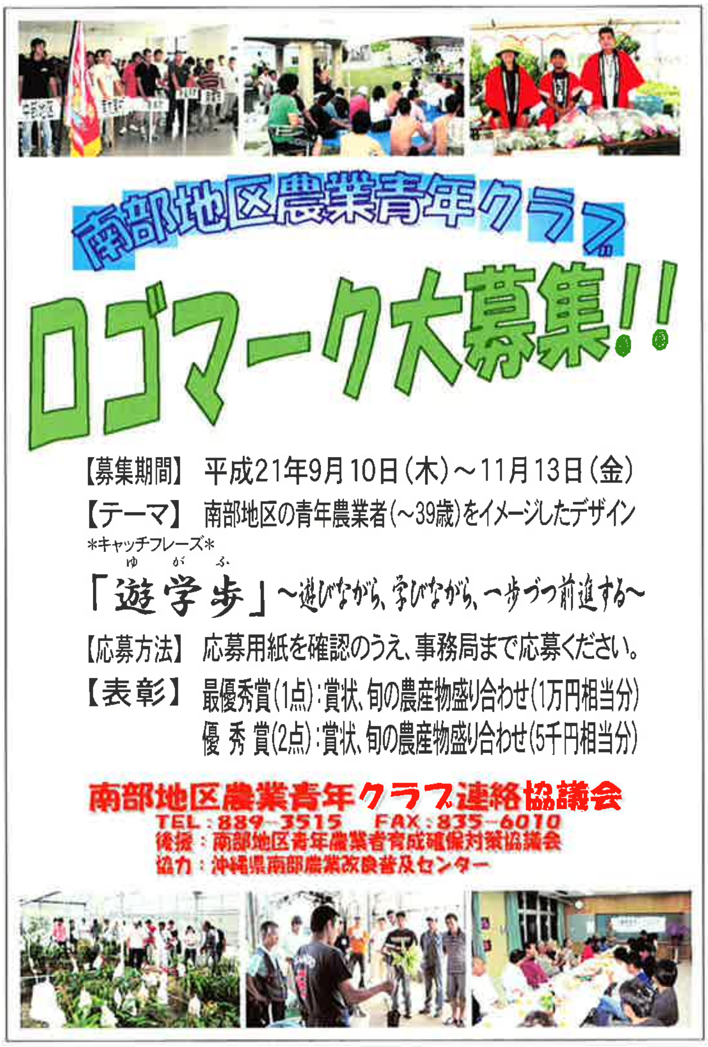
帰国後、祖父のサトウキビの管理・収穫を積極的に手伝いながら、就農支援講座等へ参加するなど、就農に向けて意欲的に取り組んできた。

今年度に入り、祖父の畑(60a)を借用し、マンゴー、サヤインゲン、ゴーヤー、オクラ、キャベツの栽培準備を進めており、八重瀬町ファーマーズクラブにも新規加入している。

将来的には、「同じ意識を持った仲間同士で法人となり、オリジナルの販路を開拓するなど、契約栽培等を主とした農業経営で安定化を目指したい」と意気込む。

今後の活躍にご期待ください!!

（普及企画班：橘）



南部地区農業青年クラブのロゴマーク大募集!!

この度、南部地区農業青年クラブ連絡協議会では、本クラブに関心を寄せてもらい、会員相互の活動意欲の向上と活動をＰＲすることを目的に、地域に親しまれるロゴマーク（キャラクター等）のデザインを一般公募（南部管内限定）することになりました。

選考されたデザインは、南部地区農業青年クラブ用の広報、クラブ活動に活用します。

←このポスターを見て興味がある方は、下記の事務局までご連絡（メール可）下さい。応募用紙を送付します。

多数のご応募よろしくお願いします(^o^)!!

〇事務局(応募先)：住所(表紙に記載)
事務局長：三上大輔、担当：普及企画班　橘
Mailアドレス：xx045039@pref.okinawa.lg.jp

※受賞者は、平成22年２月に行われる「消費者交流会」に招待し、表彰致します。
※受賞作品の「著作権」など一切の権限は、主催者に全て帰属するものとする。